

生体腎移植でのHCV抗体陽性レシピエントにおける 腎生着率と生存率の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田端, 秀日朗 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30337

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2798 号	氏 名	田端 秀日朗
審 査 委 員 会	主 査 教 授	新田 孝作	
<p>論文審査の要旨 (400 字以内)</p> <p>本研究の目的は、HCV 抗体の有無による移植腎生着率と生存率を比較することである。</p> <p>対象は生体腎移植を施行した 964 例で、HCV 抗体(-)の 914 例と HCV 抗体(+)の 50 例に分け、腎生着率と生存率を比較した。背景の偏りは、プロペンシティ・スコアマッチング法を用いて調整した。</p> <p>移植腎生着率は、HCV 抗体(-)群(%) vs. HCV 抗体(+)群(%)で、36 か月後 93.6 vs. 83.5、60 か月後 88.4 vs. 71.8、120 か月後 75.6 vs. 51.3 と HCV 抗体(+)群の生着率は経年的に有意に低下した(p<0.001)。また、HCV 抗体陰性群(%) vs. HCV 抗体陽性群(%)で、36 か月後 98.3 vs. 94.0、60 か月後 97.3 vs. 89.3、120 か月後 93.7 vs. 81.3 と HCV 抗体(+)群の生存率は経年的に有意に低下した(p<0.001)。</p> <p>腎生着率が低下する原因として、HCV 抗体(+)群では慢性拒絶反応や移植後腎炎の割合が高いこと、移植後糖尿病の発症率が高率であったことがあげられる。したがって、移植前のインターフェロン治療が慢性拒絶反応を抑制し、移植腎生着率の向上に寄与すると考えられた。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			